

②赤土堆積状況

沖縄県環境保健部が実施した赤土堆積状況調査の結果は図-3.1.2(14)に示すとおりである。

轟川周辺海域では河口北側礁池において中央粒径が小さく、シルト・粘土含有率が高く、赤土含量が高い傾向がみられる。

③濁水流入状況

濁水流入状況調査の結果は、表-3.1.2(18)に示すとおりである。

区間降雨量33.9～247.8mmに対して、轟川から流入するSS負荷量は7.29～362tとなっている。

表-3.1.2(18) 轟川流域の降雨パターンにおける濁水の流出パターン

降雨パターン					流出パターン					
一連降雨期間	区間降雨量 (mm)	最大60分雨量 (降雨強度) (mm/h)	期間降雨係数 (tf・m <sup>2</sup> /ha/a)	流域降雨量 (m <sup>3</sup> )	流出期間	流量 (m <sup>3</sup> )	最大流量 (時刻) (m <sup>3</sup> /s)	流出係数	SS負荷量 (t)	SS最大値 (時刻) (mg/L)
H7.5.7 04:00～20:00台	45.3	10.3 (06:00)	8.77	544,000	H7.5.7 (08:05～19:35)	134,290	4.16 (13:05)	0.247	7.96	104 (09:05)
H7.5.13～14 16:00～12:00台	40.0	13.9 (5.14.09:00)	10.29	480,000	H7.5.14 (10:27～21:57)	152,260	6.05 (11:57)	0.317	8.97	144 (11:27)
H7.6.8 21:00～24:00台	33.9	18.7 (21:00)	14.08	407,000	H7.6.8～9 (21:50～08:50)	109,000	4.30 (01:20)	0.270	7.29	176 (23:50)
H7.6.9～10 07:00～14:00台	138.8	28.5 (6.9.11:00)	81.80	1,670,000	H7.6.9 (09:20～21:20)	1,113,200	47.9 (12:20)	0.667	182.00	555 (12:20)
H7.9.22～23 12:00～10:00台	123.2	79.2 (23:00)	246.15	1,480,000	H7.9.22～23 (15:00～14:30)	536,700	68.5 (00:30)	0.363	362.00	1,240 (01:00)
H8.5.21～24 05:00～09:00台	247.8	26.5 (5.23.18:00)	123.62	2,973,600	H8.5.22～24 (20:00～16:00)	1,933,300	55.7 (19:00)	0.650	338.00	756 (19:00)

注1. 流域降雨量 (m<sup>3</sup>) = 流域面積 (m<sup>2</sup>) × 降雨量 (mm) × 10<sup>-3</sup>

流域面積 = 12,000,000m<sup>2</sup> (「平成5年度轟川流域赤土流出実態調査報告書」(平成6年3月、県環境保全課)による)

2. 流出係数 = 流量 / 流域降雨量

出典: 「サンゴ礁生態系保全調査」(平成8年3月、沖縄県環境保健部)

④濁水拡散状況

濁水拡散状況調査結果の概要は表-3.1.2(19)に示すとおりである。また、この調査での水温、塩分、濁度、SS、濁水の水平分布については、資料編 付図-3.2(1)及び付図-3.2(2)に示すとおりである。

流況は北流の恒流成分が支配的であるため、濁水は主に北方向へ拡散している。北方向に拡散した濁水は、モリヤマグチ方向に拡散している。濁水による汚濁規模と降雨条件の関係は直線関係ではなく、波・流れによる拡散などの要因が影響していると推測される。

⑤赤土堆積状況調査(降雨後の経時変化を追跡)

赤土堆積状況調査の結果は表-3.1.2(20)に示すとおりである。

赤土含量、シルト・粘土分及びCODは降雨ごとにわずかに増加傾向にある。